

練馬・文化の会 会だより

共同代表：有原誠治 大内要三 小岩昌子 小沼稜子 田場洋和 吉田巳蔵

事務局：森田彦一 TEL：03-3951-4276 FAX：03-3951-0616

(会費などの郵便振替：00150-7-130265 練馬・文化の会) ホームページ <http://www.nerimabunka.com/>

1月7日の新年会に約50人が参加

チェロ・ヴァイオリンの二重奏は「オーケストラ」の響きに・・・
出席者のスピーチは区政―国政に至るまで多様な警鐘・苦言

文化の会の恒例の新年会が1月7日（土）、職員研修所で、約50人が参加して開かれました。大内要三・共同代表が開会挨拶したあと、寺井・今村夫妻によるチェロ・ヴァイオリンの二重奏は、モーツアルトからベートーベンなどのクラシック音楽の巨匠の音楽をコンパクトに選曲し、「オーケストラを聞いた気分になって」という寺井さんのリードによって、楽しい心地よい時間を過ごすことができました。寺井さんからは「お酒を飲みながら聞いてほしかった」とおっしゃっていただきました。事前の打ち合せ不足が悔やまれた点でした。

次いで有原誠二・共同代表の乾杯で飲食ありの新年会がスタート。当日配布した文化の会45周年記念誌「みつがしわ―特集私と戦後71年」の執筆者や広告出稿者をメインに参加者がショートスピーチ。まず区の職員の方から前川区長が区民サービス削減を目指した本格的な合

理化に取り組む姿勢に警鐘を鳴らし、森田彦一・事務局長は「市民の時代」を強調。また、多くの方が「安倍政権暴走」の問題点を指摘。中でも安倍政権が成立を急いでいる「共謀罪」の危険性を指摘する声がありました。会としての取り組みが求められそうです。

最後に閉会あいさつにたった小沼稜子・共同代表は「みつがしわ・特集“私と戦後71年”」の編集委員長として「練馬の市民運動はこれまではどちらかといえば女性を中心。特集の編集にあたっては、その点を配慮した。ただ高齢化が進んでいる中では、インタビューをもとに代筆した原稿もいくつかある」と編集の苦労話を披露しました。また、文化の会のHPのアクセスが少ないとの声にこたえて、早速「食べ物が残らず。今の時代に問題」との指摘がHPに寄せられました。準備を進めたスタッフの側の「配慮」が問われた点でした。（田場記）

沖縄ねりま映画祭、2月8日の実行委員会で始動：皆さまの協力を！

大枠の日程固まる―初日は9月30日（土）武蔵大の森口豁トーク
以後10月に練馬駅周辺の公共施設で実施へ

900人を超える参加者を得た沖縄映画祭の成果を引き継ごう―ということで、本年は「沖縄ねりま映画祭」との名前で、練馬駅周辺の公共施設を使って映画祭を実施することになりました。武蔵大の永田教授の協力をいただいて、9月30日（土）に武蔵大で森口豁氏のトークを行い、以後10月はココネリ、生涯学習センター、厚生文化会館など練馬駅周辺の公共施設を使って実施するという大枠だけ決め、あとは個人参加による実行委員会で内容を固めるという方向だけ決めています。文化の会という組

織としてかわかることはしませんが、多くの会員の方の協力なしには実施できません。第1回の実行委員会を下記により実施しますので、多くの会員の皆さま、ご参加ください。（田場記）

「沖縄ねりま映画祭」実行委員会の日時・議事内容メモ

2月8日（水）後7時～ココネリ第2研修室東（練馬地域の会で場所は確保）
・駅周辺の会場確保 ・上映作品のラインアップ
・予算建 ・スタッフ体制

武蔵大学・文化の会共同制作ドキュメンタリー上映会（1月21日・ココネリ）

「アスベスト被害」など4作品上映し、参加者で活発な論議

武蔵大学と文化の会の共同制作番組4作品の上映会が1月21日（土）午後6時半からココ

ネリ第2研修室で行われ15名が参加しました。16年に制作された「埋もれた時限爆弾―さい

たまアスベスト被害」が、大阪での「地方の時代映像祭」の市民・学生・自治体部門で優秀賞（グランプリ）を受賞したのを機に企画されたもの。10年に近い共同制作活動の中では、同じ映画祭で奨励賞を獲得した09年の小岩昌子さんの「私は風船爆弾を作っていた（30分）」と12年の「練馬駐屯地を見たものは一自衛隊は果たしてフレンドリーか」、それに共同制作第1作の「マンモス（光が丘）団地は飛行場だった」を併せて4作品が上映されました。

まず戦争をテーマにした3作品を視聴した後、参加者で論議しましたが、地元練馬をベースにしたものだけに、身に引き寄せての感想が語られ、とくに「練馬駐屯地」について、「爆弾の

音を聞いて駐屯地を見学した学生の表情が一変したのが大変リアルだった。多くの人に見てもらいたい」と語られました。

最後に上映された「アスベスト（石綿）被害」作品については、たまたま南田中団地の改装で「被害」にあった坂本さんから（別項原稿）の発言があり、

“現実一いまの公害”として、参加者の肝を冷やしました。制作にあたった学生さん（古川さん）も出席されていましたが、時間の関係で生話が聞けませんでした。続編を制作中とのことですので、続編が完成した時点で南田中団地の坂本さんの話と合わせて上映会を企画する必要があります。（田場記）

アスベストに囲まれていた南田中都営団地に 変化が

坂本茂 （南田中団地在住、練馬平和委員会）

一昨年、私の住む老齢化が進む都営南田中団地で東京都のずさんなアスベスト管理が問題になった。

都営南田中団地は49棟で構成され1,873世帯を有する。1983年、光が丘団地ができる前までは練馬区内最大の都営団地であった。アスベストは、悪魔の素材・静かな時限爆弾とも呼ばれている、アスベストが体を蝕むと15年から50年かけて肺がんや中皮腫（生存率1～2年）で死に至る場合がある。熊本地震は早く復興して欲しい、がれきの中にも多くのアスベストが入っていることを忘れてはならない。

2015年6月、私たちの住む団地では1年かかりの耐震改修工事が始まった。ところが東京都は工事が始まり突然、住民には説明抜きでストップ。住民は原因究明のため都市整備委員会に所属する白石民男（共産）都議に調査依頼、すると、20年前団地の外壁塗装した際にアスベストが多くの棟で0.1%以上（当時は合法）含有したことが判明した、東京都は大気汚染防止法と環境確保条例に基づくアスベスト対策に時間を要したようだ。

私が耐震工事を受注した小河原建設は「今まで外壁調査の概念がなく、外壁塗装調査初めてだ、10号棟に最大値1.21%アスベスト（2004年10月に使用が禁止されたクリソタイル：中

皮腫を発症し死に至る）が含まれていた」と説明した、0.1%の基準値を遥かに超えていたのだ。その数値は東京都は住民に隠し続けた。

都営住宅を管理しているJKK東京の評議委員会決算議事録には「天井・バルコニー・キッチン」の周り・便所天井のアスベスト成形板等にアスベストが使用されていることや、一昨年、都営住宅空き部屋改修工事において70戸で法律違反してアスベストを飛散したことも明らかになっていることも調査してわかった。このような事件が公にならないのはJKK東京の予算委員会や決算評議委員会が年2回召集され、マスコミや都民の傍聴を嫌う東京都の隠蔽体質にほかならないからだ。その後、公明党の都議も動きアスベストなど含む耐震工事の住民説明会（法的義務なし）が12月になって団地内で急遽開催された。住民は「業者やJKKは知っていて、なぜ、住民には知らせない、隠すな、安全に工事再開を」と、次々に怒りの意見が上がった。

昨年1月、耐震工事が再開されたが、作業員はマスクもせず外壁にドリルで穴を開け大気中にアスベストを飛散し続けた。住民は練馬区環境規制係や池袋労働基準監督署さらに都議会へ出向き、工事の経過メモ、工事中の写真や外壁の残骸を持参して追求した。アスベストに詳しい白石都議（共産）はJKK東京と交渉を繰り返して

くれた。住民はアスベスト工事に携わると
び職がアスベスト作業の資格なしで作業を
した様子などを訴えた、その結果、調査期
間中工事は中断し、東京都は調査を再度開
始し職人さんたちはアスベスト講習を受け、
10日後、アスベスト作業用マスクを付け
て工事が再開した。その後、勇気ある職人
さんは「電動工具の国内最大手であり日本
国内シェアは約60%を占めるマキタの振動
ドリルを使用していたが、さらに吸塵力を
高めるためドイツ製のメーカー変更した」
と私に打ち明けてくれた。東京都や請け負
う親方たちは儲けのために職人の命など犠

牲にすることぐらいへっちゃらなのだろう
か・・・それにしても 一歩前進だ。

よりよく安心して住み続ける都営住宅に
なるかどうかは、「誰かがやってくれるか
な？」ではなく自分たちで身体に危険なア
スベストなどの学習、現場で労働者とも寄
り添い今なにが起こっているか調査、住民
同士などで議論、それらの結果を議会での
事実に基づいて追求し、それらの結果を住
民にキャッチボールしながら返し、また住
民から意見を取り入れる、まどろっこしい
と思うがそうすることが都営団地の住民が
安心に住める早道かもしれない。

**医療費助成制度で差別—「身体」「知的」障害には適用し、「精神」助成せず
(同封「陳情書」を轡田さんか「東京つくし会」あてに送付を！)**

また新たな差別問題——(同封)東京新
聞1月12日付け「こちら特報部」紙面に
轡田さんの大きな顔写真が出ていてびく
りさせられました。早速読んでみると、一
般疾患の医療費助成が、「身体」「知的」
障害者には適用されるが、「精神」障害者
は外されているという明らかな「差別」が
されているということです。“寡黙”な轡
田さんですから、本人から実は話を聞いた
ことはなかったのですが、だいたい「知的」
障害と「精神」の区別さえ、私(田場)は
知りませんでした。私の身うちに(轡田さ
んの息子さんと同じ)「統合失調症」の患

者を掲げているにもかかわらず、です。

東京新聞と患者の家族会「つくし会」の
解説チラシを同封しましたので、お読みく
ださい。東京都あての陳情書も同封しまし
たので、2月15日の第2次締め切りまで
に、下記轡田さんか「つくし会」の真壁博
美会長さん(陳情書に住所等明記)宛にお
送りください。(轡田代—田場記)

轡田英夫：〒176-0002 練馬区桜台5-24-
2 電話(3948)5129

※ できるだけ早い機会に文化の会と
して学習会を企画する予定です。

第6回江古田映画祭「3. 11 福島を忘れない」2月25日—3月12日

初日は武蔵大学、26日以降はギャラリー古藤で——皆さまのご協力を！

同封チラシのように、「3. 11 福島を
忘れない」をテーマにした第6回江古田映
画祭が2月25日(土)の武蔵大学を起点
にあとはこれまでどおり、ギャラリー古藤
を会場にして行われます。前回の第5回で
は、初めて参加者が1000名を突破する
という記録を残しました。20年の東京五
輪が「復興五輪」などのキャッチフレーズ

で踊らされ、原発再稼働の動きが一段と強
まる中で、「福島を忘れない」ことは大変
大事なコンセプトになっています。

会員の皆さま、観客としてだけでなく、
是非スタッフとしてもご協力いただきた
いと思います。協力いただけそうな方には、
別途ご連絡いたしますので、よろしくお願
いいたします。(田場記)

旭丘小・中学校と小竹小学校の学校統廃合と小中一貫校の問題について

練馬区の東地区にある創立70周年の旭丘小学校と創立60周年の旭丘中学校。50数年の小竹小学校が、統廃合され、小中一貫校として、旭丘小・中学校の跡地に新しい「小中一貫校」を作ろうとしている。

その理由は、①児童が少なく、今後も入学児童が少なくなる ②校舎が老朽化している ③新たに小中一貫校を作る という点である。

しかし、問題点はいくつかある。昨年末各地区で2回の説明会があった。そこで出た問題は、①小竹小学校が廃止になることで、生徒の通学が不便になる ②何故、小中一貫校を作る必要があるのか説明が不十分である。③校舎は廃校でなくて、その場で新築にすればよい

④過小規模校の数字で、これからも増えるという数字を隠して出すという、信頼のおけない報告をする などの理由で、小竹町の住民を中心に反対運動が進んでいる。町会副会長をリーダーとする反対署名には若い人を中心に6000筆も集まった。第一義的には、廃校が問題になっていますが、もう一つ重要なのは、練馬区で大泉桜

学園に次いで2番目になる小中一貫校の問題である。大泉桜学園の総括についても、良い点だけを上げて、問題点などは、最初の説明会では、考えられないといいながら、2回目では、少しあるが、相対的には問題ないと語った。最初導入した品川区などは問題が山積みされて、その後、他の区では、増えていないことを追及すると、よく調べますと逃げている。

政府の教育政策が、バラバラであることが問題であるが、考えてみれば、小中一貫校、中高一貫校。区域外入学制度など教育現場では、本当にとまどいが見られる。子どもも困ってしまう。これらの政策は、国民側からの提案でなく、いずれも時の政府によって、勝手に決められている。教育を国民のもとに取り戻すためにも、旭丘、小竹地域だけの問題ではなくて、区全体の問題ととらえる必要がある。（森田記）

総選挙がこの秋に伸びたことで、市民と野党の統一候補への戦いが、体制作りを中心に進めることとなりそうだ。

——市民と野党が結ぶ統一候補で総選挙を——

東京9区（練馬の練馬町以西）：野党候補の政策もとに政策づくりへ

東京10区（桜台以东・豊島）：「豊洲問題」などテーマにしながら活動

練馬区の東京9区は、この期間、「木内孝胤と原純子を囲む会」などを開き、総選挙に立候補を決めている二人に、具体的な政策を聞きながら、市民団体「ねりせん（練馬・みんなで選挙）」は、政策作りを進めている。選挙が、秋に延びたこともあって、もう一度「東京10区」の選挙の結果を考えながら、体制を構築していく方針だ。

練馬区の一部と豊島区の東京10区は、1月29日に再スタートの集会を開き、同時に築地市場の組合の委員長中澤誠氏を呼んで、「どうする豊洲移転問題」を話してもらう。その後、今後の活動について皆で話し合うようになって

いる。

東京10区の補欠選挙の野党統一の動きは、いまや、東京全体に広がっており、連絡会として「市民と野党をつなぐ会@東京」ができ、東京全25区に、市民と野党の統一候補を選んで勝利しようという組織作りが始まっている。

いま、安倍暴走内閣を倒すためには、何としても野党が統一して、政策協定を結び、統一候補を選んで、選挙態勢を組まなければなりません。そのためには、真面目な共闘を組んで市民連合が中心となって、地域で、市民が立ち上がらなければ、なりません。（森田記）

会費未納者の方に一振り込み用紙同封しましたので、よろしく
問い合わせは轡田さん（電話3948-5129）まで